

重要な役割を果たす担任の役割（240万人の小学校教諭の課題） 「正確さと流暢性の両方を獲得する」

平成14（2002）年より「総合的な学習の時間」において英語学習が導入された。また文部科学省は、同年「『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想—英語力・国語力増進プランを発表」、翌15（2003）年には、「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画」を発表した。

その中で、小学校の英会話活動の支援として、「総合的な学習の時間などにおいて英会話活動を行っている小学校について、その回数の3分の1程度は、外国人教員、英語に堪能な者又は中学校等の英語教員による指導が行えるよう支援する」との目標が掲げられている。

小学校英語のねらいを考える際、「総合的な学習の時間」では、「例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題、子どもの興味・関心に基づく課題、地域や学校の特色に応じた課題などについて、学校の実態に応じた学習活動を行うものとする。」とされており、具体的には、①「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること」、②「学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること」とある。そして、「小学校学習指導要領」（平成10年）における配慮事項として、以下のように示されている。

「国際理解に関する学習の一環としての外国語会話等を行うときは、学校の実態等に応じ、児童が外国語に触れたり、外国の生活や文化などに慣れ親しんだりするなど小学校段階にふさわしい体験的な学習が行われるようにすること。」

その後文部科学省から出された『小学校英語活動の実践の手引き』の中で、小学校英語活動の3つの学習内容が具体的に次のように示されている。「外国語会話」は、歌、ゲーム、クイズ、ごっこ遊びなどを通して、身近な簡単な英語を聞いたり話したりする体験的な活動、「国際交流活動」は、様々な学校行事や地域の外国人との直接交流を通して様々な言葉や文化に触れながら、子どもの国際感覚を磨く活動、「調べ学習」は、子どもの興味・関心を基にして、外国の生活や文化などについて調べたり発表したりする活動である。

つまり、学校の実態に応じてその内容や時間数等は任され、あくまで体験的な学習や問題解決的な学習などを多く取り入れ、外国語に触れたり、慣れ親しむといった態度の育成と、実践的な能力や資質の向上に重点が置かれているのである。

「国際理解教育」とは

- ①広い視野を持ち、異文化を理解すると共に、これを尊重する態度や異なる文化を持った人々と共に生きていく資質や能力の育成を図ること。
- ②国際理解のためにも、日本人として、また、個人としての自己の確立を図ること。
- ③国際社会において、相手の立場を尊重しつつ、自分の考えや意思を表現できる基礎的な力を育成する観点から、外国語能力の基礎や表現力等のコミュニケーション能力の育成を図ること。

この答申からは国際理解のねらいは、21世紀のグローバル社会における共生の精神であり、日本人としての自己の確立と外国語によるコミュニケーション能力ということになる。中教審外国語専門部会の報告書においても、同様の考えが受け継がれており、国際コミュニケーション能力の育成と英語のスキルを育てるといった二元論的立場を取っている。

- ①英語活動の話題、言語材料、活動（歌、チャント、ゲーム、ストーリーテリングなど）を年齢や認知的発達段階に応じたものになるように工夫する。
- ②文字より音声を中心とし、繰り返し聞かせることで内容を理解させる。
- ③必要最小限の語彙を学べるように、日常生活に身近なことがらや、既知のものでも新たな発見をもたらす語など（外

来語、和製英語) を意味のまとまり(語彙ネットワーク)で覚えさせる。

④子どもの言いたいことやしたいことを取り入れた多様なコミュニケーション活動を行う。その際ゲーム感覚的要素を含む。

⑤外国人の表情や身ぶりの中から、文化の違いに気付かせるなど国際理解の視点を取り入れる。

望ましい指導者と必要な資質

- (1) 学級担任(HRT)：児童の特徴や学級経営、他教科の指導などを考慮しながら自然に英語活動を取り入れることが可能である。担任に求められる資質・能力として、「英語の運用力」「カリキュラム・デザインの能力」「教師自身の国際化」があり、子どもが好きで、明るく表情が豊かで、自分が知らないことにチャレンジし、正しい発音が出来、ゲームや歌をたくさん知っており、好奇心と何にでも挑戦する気持ちと共に英語だけの授業を工夫しようとし、報われることを期待しない人が向いているといえる。
- (2) 特に、今後小学校英語が必修化されるとすれば、次のような資質や能力が必要だと考えられる。

1) 小学校における英語教育の意義と役割、目的を理解している。

・聞くことを中心とした段階から、自然に話せるようになる段階を待つ。

・発達段階に応じた授業を展開するために、児童に適したNatural Approach(インプット理論)やTPR(全身反応法)などの教授法を理解し、さらに第二言語習得、言語発達、心理言語学など関連諸分野の理論、学習心理学、発達心理学などの知識がある。

2) 国際理解教育の本質を理解している：「気づきから共感と理解、そして実践へ」異文化素材の掘り起こしと教材化、指導ができる。

3) 指導目標にそって、年間指導計画を作成することができる。また学習指導案を作成し、授業を円滑に行い、児童の達成度を評価できる。

4) 英語の特徴を理解してうまく活用できる。

・絵や写真、実物などのvisual aids を用いる。

・分かりやすい簡単な英語を用いる(simplification)。

・ジェスチャーを用いたり、言い換えをしたり、スパイラル的に繰り返し教える。

・メッセージを繰り返し語りかける。

5) 個性や人間性に関する資質：創造力、感性が豊かである。明るく元気で、楽しい授業ができる。演じることができる。子供中心の授業ができる。外国人と接触する機会を作り、外国人や異文化との交流に関心が高い。児童の前で自己を開示できる。

6) 英語で授業を進めたり、児童にモデルを示したり、ALTと授業の打ち合わせが出来るなど、英語の実践的コミュニケーション能力がある。

7) 児童のつぶやきを聞き逃さない。児童への素早い対応ができる。

8) 授業の雰囲気づくりや生徒を誉め、やる気にさせる。

9) 教材作成能力がある：ゲームや歌、チャント、絵本の読み聞かせなど、児童の興味・関心、発達段階を考慮した教材を開発・収集・改良する力。児童の学習内容(他教科の既習・未習や状況、興味・関心を把握した上での教材作成)の理解。

ALTとのTTの授業形態が望ましい

担任が英語力に自信がない、英語教育、外国語教授法などの専門的教育を受けておらず、英語授業の経験も少ないためと考えられる。しかしまとまった研修を受け、英語活動を継続して行くと、英語力が向上し、英語指導および英語

力について自信がつくと答える教員が増えるなど意識が変化したとする各務原市の例も見られ、研修の重要性が感じられる。中教審の外国語部会の報告書では、「小学校教員の英語指導力の現状を踏まえると、当面は学級担任（学校の実情によっては、担当教員）とALT や英語が堪能な地域人材等とのティーム・ティーチングを基本とする方向で検討することが適当と考える。

今後、教育内容や指導方法の具体的な設計、研修による小学校教員の英語指導力確保の見通し、教材・教具の整備活用の見通し等を考慮しながら専門的に検討していく必要があると考える。」としており、その方向で進むことが予想される。

現在行われている日本の教員研修

現在実施されている研修としては、独立行政法人教員研修センターや各地方自治体の教育センターなど公的な機関が主催するもの、及び学会や民間教育団体のものが挙げられる。

同教員研修センターでは、平成13（2001）年10月より現職教員対象に全5日間約30時間の研修を行っており、研修内容は、講義（英語活動の目的・カリキュラム作成法・指導法）と、実践指導（実践紹介・授業作り・討論・授業発表など）である。京都市総合教育センターでは京都市教育委員会主催のもと、「小学校英語活動研修講座」「教科理論研修」「クラスルームイングリッシュ・ブラッシュアップ講座」「小学校英語スキルアップ講座」「支部ブロック研修（出前研修）」など積極的に取り組まれている。

また、日本児童英語教育学会、小学校英語教育学会などの学会や、民間団体では毎年、理論と実践的指導法を合わせた研修セミナーを実施している。また小学校教員を対象に研修を行っている大学も近年増え始めている。

海外で行われている教員研修（日本では十分と難しい早急に対応すべきだと考えられる。）

台湾の国民小学校では360時間の研修が行われ、英語を教科として導入している韓国においては、例えば仁川教育大学では現職教員対象に基礎・上級各20日間計245時間の研修が行われている。

基礎コース120時間の内、58時間は英会話に当てられ、理論（言語習得理論、教授法、教材論など）12時間、指導法15時間、実践法16時間、実習15時間、他4時間である。研修の量と質（研修内容の充実度）

日本の大学での教育課程

宮城教育大学では学生への教員養成プログラムとして、小学校英語活動を扱った演習科目（英語学演習C：選択必修、半期2単位）の開講と、アシスタントとして授業に参加する出張授業の実践を行っている。

演習では、毎週小学校の英語活動を想定した模擬授業を交替で立案・実践し、学生は授業を「受ける側」と「実践する側」の両方を経験する。奈良教育大学では、「早期英語教育論・中等教科教育法[英語]・国際英語教育論・国際理解教育特講」として小・中・高の教育現場で国際理解に重点を置く英語指導を推進していくために必要とされる知識や技能を学ぶ科目が備えられている。

OMDの特別企画 カナダ夏季英会話2016年8月14日～27日 小学校学習指導要領+教室独自プラン

最低催行人数6名です。カナダ ヴィクトリアは安全で綺麗な街です。ホームステイや航空券なども手配いたします。ホームステイ先にはネイティブイングリッシュの方がおります。食事つきです。教育実習も行います。

日本では初めて小学校教諭のための英会話研修特別プログラム

2016年夏休みプランです。お申し込みは早めをお願い申し上げます。

2016年夏季日程表 8月15日～8月26日							
授業時間【月曜日～金曜日】午前9:00～午後3:00							
日時	日曜日 8月14日	月曜日 15日	火曜日 16日	水曜日 17日	木曜日 18日	金曜日 19日	土曜日 20日
9:00	ヴィクトリアに到着 (13日土曜日到着可)	8:30 クラス分けテスト オリエンテーション ビクトリアの中心地を散策 (パスポート、保険証持参)	パワー英語	パワー英語	パワー英語	パワー英語	ホストファミリーと自由行動
12:00			生徒への英語の教え方	生徒への英語の教え方	生徒への英語の教え方	クジラ 見学	
13:00							
15:00							
日時	日曜日 21日	月曜日 22日	火曜日 23日	水曜日 24日	木曜日 25日	金曜日 26日	土曜日 27日・28日
9:00	ホストファミリーと自由行動	パワー英語	パワー英語	パワー英語 9:00～12:00	パワー英語	パワー英語	ホストファミリーと自由行動 28日帰国
15:00		生徒への英語の教え方	生徒への英語の教え方	生徒への英語の教え方	現地の園児や小学生に 英語を教える教育実習	午後は自由行動	
15:15							
16:15							

活動は予告なしに目的により変わることがあります-もし、上記の活動ができない場合は同様の活動となります。



入校登後は

- ・ 毎朝、ランチルームではフリードリンクと軽食を用意しております。
- ・ 学校の無線インターネット接続、休憩時間のコンピュータ室の利用
- ・ 学校施設（例えば、フットボール、エアホッケーテーブル、ギターその他）の利用
- ・ 食堂施設の利用（電子レンジ、冷蔵庫と他のキッチン）
- ・ 1日目のクラス分け試験と方針
- ・ 最後の日に卒業の証明書をお渡し致します

クラスの機能は

- ・ オープンの10日/英語の授業（25時間/週）
- ・ カスタムTECが教えるために地元の幼稚園で実習をします。
- ・ 教育における豊富な資格や経験を持つネイティブスピーカーの教師。学生はすべての年齢や国籍の方々。
- ・ 流暢な会話に焦点をあてる：効果的なコミュニケーションが取れる英語を使う。

活動

すべてのスケジュールの活動のための交通・エントリー料 その他の放課後や週末の活動はとのリクエストに応じてアレンジすることができます。追加料金が掛かりますのでご相談下さい。

登録要件

すべてのグループメンバーのための（グループメンバー6人制は弊社と学校間の条件が6人を1つのグループとして支払いや登録などを行う事になっており、授業の円滑や振込料の節約などが目的であり、ご参加いただく方の便宜を図るもので参加者の方に6人で申し込んで下さいという意味ではございません。）

必要な登録情報：

- ・ お名前、生年月日、お住いの住所、国籍 ペットに関するアレルギー、嗜好など。
- ・ お申込みが決定致しましたら、ご記入いただく申込書をお渡し致します。

参加費用

- ・ 渡航費、授業料、ホームスティー3食、お出迎えを含み40万円を予定しています。詳細はご連絡下さい。